



学校だより よつわ

教育目標「進んで学び 生き生きと活動する子ども」

柏崎市立田尻小学校 No. 9 (R7. 2. 26)

田尻小ホームページ : <https://www.kenet.ed.jp/tajiri/tayori/>



学校における節目 ～多くの出会い 心の耕し 成長につなげた一年～

校長 ○○ ○○

令和6年度、最後の学校だよりとなります。あとひと月で6年生は卒業し、中学校に入学。田尻小学校には新1年生が入学する節目の時期を迎えようとしています。今年度を振り返り、私が感じた教育活動や学校行事、児童の様子で心に残った出来事をお伝えいたします。

学校における宿泊体験は、いつの時代も児童の心に残り、成長を促すものだと感じます。高柳の澄んだ空気、満天の星空の下、5年生の自然教室での一コマです。引率したわけではなく夜の活動を見に行っただけでしたが、キャンプファイヤーでの盛り上がりは、今まで見たことのないものでした。児童一人一人、集団としても皆で楽しもうという気持ち、思いやり、一体感を感じました。「マイム・マイム」のダンスなどは、ふざける子はおらず、真剣に踊り、声を出し、歌い、大いに仲間たちと楽しむ様子に感激したことを今も思い出します。

また、6年生は、福島県へ修学旅行に行き、私も帯同しました。コロナ禍で県内での修学旅行となっていた前年から県外ということでお金もかかりましたが、見識を広げることができました。何より、友達と一緒に宿泊することの経験は、様々な発見につながったようです。普段自分がしていることが、周りと違うことを感じる場面がいくつもあります。お風呂の入り方、寝る時の常夜灯の有無、寝起きの違い、など。友達と宿泊する時の気づきはいくつもあったようです。卒業アルバムの個人ページには、修学旅行の出来事がたくさん書かれていました。

1・2年生の生活科における植物との関わりにおける児童の生き生きとした表情は、育てる対象への愛情に溢れていました。3年生は学校の代表として見学先で立派な挨拶と整列をいつも見せてくれ、頼もしく思いました。4年生は、なんといっても老人ホームでの物おじしない関わり、笑顔を絶やさず、手を取り、声をかける姿は、思いやりに溢れていました。

そんな教育活動の根底で大切にしてきた学力向上に向けた日々の様々な授業実践。令和日本型教育を柱に、田尻小学校では、学びの「おもしろさ」を児童に感じてもらえるような課題提示や、友達と関わりながら、問題を解決していく学習形態の推進、個に応じた学びを追及できるようにタブレットを活用しながら、自分で探求できるように学習過程を柔軟にするなど、それぞれの授業実践を見合い、その成果と課題を協議したりしながら、より良い授業づくりを進めてきました。その成果として、柏崎市が導入しているベネッセの学力診断テストの結果から、学力の高まりを感じています。

様々な人やもの、こととの出会いを通して、児童の心を耕し、よつわっ子として立派に成長した1年であったと思っています。

私が、「地上の星」と思っている田尻小学校へボランティアでご尽力いただいている皆様、PTA執行部の皆様、保護者様に心より感謝申し上げ、1年間の成果を共に喜びたいと思っています。